ハンドラー
HANDLER Inc.

ハンドルミシンでストーリー紡ぐ 一針に想い込める刺繍工房

末広町の元ブティックを改修し、2020年4月にオープンした刺繍工房「HANDLER Inc.（ハンドラー）」。オーナーで刺繍職人の中島雄一さんはコンピュータ制御のジャカードミシンが主流の現代にあって、ヴィンテージのハンドルミシンを駆使して一針一針に想いを込める。

手ハンドルミシンは1867年にフランスのBONNAZ（ボナス）社が開発。テーブル下のハンドルを回して針の進む方向を操作することで、滑らかなステッチを描く。輪が連なるチェーン刺繍やワッペンなどのモコモコした質感のシニール刺繍を施すことができ、海外では刺繍と言えば両者を差すほどメジャーな技術だ。

ハンドラーでは1900年代を中心にヴィンテージミシンを10台以上揃え、製品に合わせて使い分けている。ほとんどのミシンは中島さんが世界中の工場から救済してきたもので、ボナス社製のミシンは現存する5台中の2台を保有するという。

ブログやSNSを通じて情報を共有し、ハンドルミシンの普及にも貢献する中島さん。「既に終わっているコンテンツを後世に繋げることが職人の役割と思っている」と手仕事を担う者の意思を滲ませる。

鉄骨の梁に無骨な天井照明、中島さんがDIYで仕上げたミッドセンチュリー（1940～60年代）の雰囲気溢れる工房は、ヴィンテージミシンのミュージアムとしても一見の価値あり。末広町通りに面した工房は歩行者からの関心も高く、「気軽に立ち寄ってもらえれば」と、カフェの開設も計画中だ。歯車がかみ合う動きと心地良い駆動音が見る人を魅了するハンドルミシン。刺繍の産地・桐生でも独自の存在として、古くて新しいクラフト・カルチャーを発信する。

【HANDLER Inc.】
●住所／桐生市末広町1-15
●電話／0277-46-7456
●ＨＰ／https://handler.inc.com
● @handler_inc